

ただのブログを、
人気ブログに変身させる
文章力アップ講座
【再配布権付き】

再配布権について

本書『ただのブログを人気ブログに変身させる文章力アップ講座』は、再配布権がついております。
アフィリエイト特典としてPDFファイルをそのまま配布してください。
有料で販売するなど、アフィリエイト特典以外の配布は禁止いたします。
文章の改変や内容の再編集なども、禁止いたします。

著作権

本書は著作権法で保護された著作物です。
本書のご使用に際しましては、以下の点にご注意下さい。

記載されている内容の一部、及びすべてを、あらゆるデータ貯蓄手段(印刷などのいかなる紙媒体、ビデオ、DVDなど、インターネットを利用したいかなる電子媒体)において複製、転売、転載することを禁じます。
万が一、上記の禁止事項を発見した場合はすみやかに弁護士を通じて法的手段によって解決いたします。

また、上記規定に違反した場合、違約件数×販売時の価格の10倍の違約金を支払うものとします。

免責事項

本書は、すべての読者の利益を保証するものではありません。
本書の利用により、いかなる損害が発生しましても、一切の責任を負いません。すべて自己責任で行なうものとします。

推奨環境

本書上に書かれているURL はクリックできます。
できない場合は最新のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)
<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

はじめに

こんにちは、風花未来と申します。

はじめに、このレポートを発表するに至った背景を理解していただくために、自己紹介をさせていただきます。

私はもともと、文章を書くことを専門とするプランナー＆コピーライターです。

広告代理店勤務の後に独立。

その後、10年以上、フリーランスのコピーライターとして生計を立てておりました。

2005年にブログをはじめ、20サイト以上のパワーブログ（ほぼ毎日更新するブログ）を同時に運営した経験を持っています。

開設したブログはすべて国内最大の「人気ブログランキング」でベスト10入り。

ページビューランキングである「ブログランキングドットネット」の総合1位を記録したこともあります。

2008年には、以下の電子書籍を出版。いずれもブログで収益を得る方法をまとめた、ブログアフィリエイトの教材です。

風花心伝

<http://xn--9oqs91bpm0avms.com/>

風花乱舞

<http://kazahanaranbu.com/>

2009年には、自己啓発マニュアルを発表。

風花瑠璃

<http://miraiyosouzu.com/>

2010年からは、セミナーも開始。

風花未来セミナー

<http://kazahana.xsrv.jp/>

マニュアルを発売し、サポートをさせていただく中で、ネットビジネスにおいて、文章力がいかに大切かを痛感させられています。

インターネットビジネスが、成功するか否かは、文章力で決まると言っても過言ではありません。

そこで、このレポートでは、私がこれまでブログなどで書いてきた「文章の書き方」に関する記事を、加筆・修正し、一つにまとめてみることにしました。

「私は文書を書くのが苦手だから...」と思っている初心者の方にも、理解していただけるように、わかりやく編集。

文章力は正しい方法で練習を重ねれば、確実にアップしますので、安心して取り組んでください。

それでは、さっそく『ブログで成功するための文章力アップ講座』を、始めましょう。

【第1講】文章の書き方3原則

「文章の書き方」について、詳しく述べ始めれば、自然と、一冊の本ができあがってしまいます。それほど奥が深いと言えます。

しかし、だからといって難しいかというと、そうではありません。文章力の養成は、難しいのではなく、奥が深いだけです。ポイントさえ押さえておけば、怖がるほどのことはありません。

基礎力を身に受けるのには、ツボをはずさずに学習すれば、着実に進歩します。

第1回目は、文章のツボをおさえる意味で、[文章の書き方3原則](#)をご紹介します。

名ジャーナリストに千葉亀雄という方がいます。昭和初期に東京日々新聞学芸部顧問をつとめた人です。かなり古い人なのですが、今でもじゅうぶん通用する、普遍的なアドバイスを残してくれています。

文章の基本は、何といても「**わかりやすさ**」です。古くから、達意簡明（たついかんめい）と申しますが、実はそれがなかなか最初はクリアできません。

わかりやすく書くことは、意外と難しいのです。

千葉亀雄さんは文章作法において、3つの原則を掲げています。

- 1)ハッキリ書け。すれば人は理解する。
- 2)短く書け。すれば人は好んで読む。
- 3)絵で書いたように書け。すれば人は記憶する。

この3原則は、文章だけで生計を立てている人でも、かなり参考になるかと思います。

簡単に解説してみましょう。

「ハッキリ書け」というのは、言いたいことは明快であるべきだということ。

雰囲気を出すことと、テーマをあやふやにすることは、全く別なんです。

よく、エッセイや広告文などの文章作法の基本として教えられることに、「最初に結論を出せ」という鉄則があります。

まあ、鉄則といっても、いつでも結論を頭に持ってこななければいけないというわけではありません。

しかし、読者は、これから筆者は何を伝えようとしているのか、ハッキリしていないと、なかなか最後まで読んでくれない場合が多い。

そういうことがないように、冒頭に、ガツンと結論を出して、読者をがちりとつかんでしまおうというわけです。

例えば、有名な観光地である高山市につたわる高山祭りについて語ろうとするとき、どういう書き出しにすべきか。

「最初に結論を出せ」を具現化した例をあげてみましょう。

飛騨高山は日本人の心のふるさとである。

このような冒頭ならば、読者は、この記事はこれから何が書かれるか、一瞬のうちに察知できます。

しかも、現代人は、心のふるさとを失っているという強い傾向があるわけですから、読者の興味を惹きつけることが可能です。

「**短く書け**」というのは、記事全体も長すぎると読みづらいですし、一つの文も長すぎると、主語と述語の関係がわかりにくくなるので、シンプルにきなさいという意味です。

1 センテンスの文字数まで指定している「文章作法」もありますが、ブログの場合は、そんなことまで気にしなくても良いでしょう。それより、改行や1行空けをひんばんにすることで、読みやくできるので、そちらの方に、より神経を配ってください。

「**絵で書いたように書け**」というのは、要するに、映像が浮かぶように書きなさいということです。

論文のような固い文体より、イメージが浮かぶ文の方が、読者は好む傾向があります。

人は理解するときに、論理でわかるときもありますが、イメージが浮かぶと、なるほどと思うものです。

【第2講】伊丹十三監督のメイキング術

今回は映画監督・伊丹十三さんのメイキング術から学んでみましょう。

「お葬式」「タンポポ」「マルサの女」「大病人」など、伊丹十三さんの映画って、実に面白いし、独特の味がありますよね。

彼の映画はもちろん楽しいですが、メイキング、つまり映画の制作過程の話も、本当に興味深いんです。

以前、伊丹十三監督の「大病人」日記を読んで、一本の映画が完成するには、実に様々なことが考えられていて、試行錯誤されているんだと深く感じ入った記憶があります。

今回は文章の書き方の3原則を学びましたが、伊丹フィルムの制作術も突き詰めると、以下の3原則になるらしい。

退屈させない。

中身が濃い。

映画に対する愛をかりたてる。

伊丹映画はすべて見ましたが、確かに、上記の3原則は、厳格に守られていますね。

「退屈させない」という言葉の裏には、極上のエンタテインメント精神が息づいているようです。

「中身が濃い」というのはまさにその通りで、彼のシナリオを読むと、内容の質量は膨大であって、それを四苦八苦して2時間程度に凝縮している。だから、中身はパンパンに詰まっているのは当然です。

「映画に対する愛をかりたてる」という言葉は深いと思います。
それにこの言葉は、私たちブロガーへの実にありがたいアドバイスと言え
そうです。

私のブログアフィリエイト教材「風花心伝」は、ブロガーが様々なジャン
ルから好きな分野を選び、1つのブログを育ててゆく過程を説いています。

人気ブログを作るためには、
「技術だけではなく、その分野に対する深い愛情が前提となる」
とも語っているのです。

実はブログでも、作者の愛情が、読者に飛び火するくらいでないといけま
せん。
それくらい、愛の炎は純粹に燃えているべきなのです。

いみじくも、あの名監督・伊丹十三さんの映画は、それを実践して見せて
くれています。

あんな天才と同じようなこと、ふつうの人にできるわけがない、
などと言わないでください。

人は好きになる動物です。愛する生物です。
ただ、そういう本来の欲望を、何かが邪魔をしてブロックしている。
そういう状態が長くつづくと、自分は何も好きになれないと勘違いしてし
まいます。

もし、あなたが1つことに深い愛情を抱けないと感じているなら、
かたくなになった気持ちをゆるめて、素直になることから始めてみてはい
かがでしょうか。

伊丹十三監督のような才能は稀有です。
しかし、純粹に何かを好きになったり、愛したりすることに才能は要りま
せん。

ブログに好きなことについて、それを素直につづって行って、それを読んだ人がブログへの愛情をかりたてられるとしたら、これほど素晴らしいことはないではありませんか。

というわけで、今回は伊丹十三監督のメイキング術から、ブログの作り方を学んでみました。

伊丹さんが掲げる3原則を確かめたい方は、ぜひ、彼の映画を見直してみてください。

【第3講】映像が鮮明に浮かぶ名作コピー

先日、東京の出版関係の会社に勤める友人と電話で歓談しました。

2人ともライター経験があるんですが、
彼は編集系ライター、
私はコピーライター系です。

で、今回の話題は「名作コピーに学ぶ」です。

まあ、私たちがライターになりたての頃は、
古典的な名作コピーなどは暗記するまで読まされたし、
自分たちでも、しばしばコピー談義、文章論に花を咲かせたものです。

夏から秋にかけて発表された名作コピーで、こういうのがあります。
かなり古いんですけど、毎年思い出すのです。

パルコのポスターのキャッチフレーズ。

少女は無口だった。夏の終わりだった。

ビジュアルは、水着の女性の後姿です。

ひと夏で少女は大人の女性になったのかもしれない。
熱い恋愛に身を焦がし、燃え尽きたかもしれない。

そういった物語性を読者に想像させる、
たいへん情感豊かなコピーでした。

では次に、秋の始まりの名作コピー。

今度も、パルコのポスター。

美しい弾丸を込めて、秋。

ビジュアルは、黒のレザーに身を包んだ外国人女性が、こちらを睨みつけている写真です。

句読点の打ち方が違っていたら、すみません。何しろ、原版が手元がないものですから。

夏の未練はさっぱり捨てて、新しい美に立ち向かってゆく女性の強烈なオーラが、紙面から立ち上がってくるようでした。

何で今日は、広告コピーの話なの？って思っていないですか。そうですね、ご説明しましょう。

この間、文章の書き方のところで、「絵を書くように書け」という話をしました。（正しくは、「絵を描くように書け」だと思うんですが...）

どうして、パルコのポスターの例を出したかということ、実は**良いコピーは必ず、良いビジュアルと結びついている**んですね。

だから、コピーライターは、ある程度、絵も描けなくてははいけないんです。私は、実際に会社で、そういう訓練をさせられました。

広告に限らず、これだけ社会がビジュアル化してくると、映像が浮かばない言葉というものは、なかなか理解されないのです。

ですから、ブロガーの文章も、映像が鮮明に浮かび上がる方が、よく伝わる場合が多いのですね。

では、どうしたら、そういう文章が書けるようになるか？

それは、文章を書く時に、映像を意識して書くクセをつけることです。

プロのコピーライターは、サムネイルといって、自分で紙に絵を書いて、そこにコピーを入れる練習を積みます。

ただのブログを人気ブログに変身させる文章力アップ講座

日ごろから、映像的な文章を、書くように心がけてください。

そんなわけで、今回は、
名作コピーの鑑賞、そして、言葉と映像との関係について、触れてみました。どうか、参考にしてください。

【第4講】蝶のように舞い、蜂のように刺す。

今回は「ブログの理想的な文体」についてです。

フランスの詩人、ポール・ヴァレリーが、
「散文は歩行であり、詩は舞踏である」
と言ったことは有名です。

では、ブログの文体は？

歩行？ それとも、舞踏？

答えは、両方の要素を含みます、です。

ブログの文体は、歩行であり、舞踏でもある。

ブログの文体でもっとも大切なのは、
一本調子にならないこと、
つまり、いつもリズムカルであることです。

他のメディアとは違うブログ独自のリズムを体得している人は、
余りにも少ないと言わねばなりません。

ブログの世界には、文章のプロも多く参入してきています。
つまり、以前には他のメディアで、職業として文章を書いていた人です。

しかし、残念ながら、その人たちは依然として、
前のメディアの文体でブログを書いているケースが多い。

私も様々なメディアで、様々な文体を書き分けてきましたが、
それらで得た文章作法とか文体を捨てた時、
急に自分のブログの読者が増加したという皮肉な経験をしています。

かといって、ブログの文体を難しく考える必要は全くありません。

柔らかな感性と柔軟な対応力さえあれば、大きな問題はないのです。

一番怖いのは、自分は文章のプロだから、こういう高尚な世界を知りなさいというような上から目線で記事を書くことです。

ブログは、基本的に大衆のための大衆によるメディア（ツール）です。新聞やテレビなど、特権階級が情報発信権を振りかざして報じるインテリたちのメディアではありません。

そのところを理解して、ブログを書いた方が、ファンたちに親しんでもらえるでしょう。

では、少し具体的な文体論に入ります。

ブログの文章にまず求められる要素は、リズム感です。

ブログに貼った広告のクリック率を高めるためにも、このリズム感は大切な要素となります。

「蝶のように舞い、蜂のように刺す」とは、華麗なフットワークと鋭い左ジャブを活用する、アウトボクシングをヘビー級に持ち込んだ、モハメド・アリの伝説的ボクシングスタイルの形容です。

実は、ブログの文体も、いつも軽やかなステップを踏んで、ジャブを出している、そんな柔軟な対応力のあるスタイルが一番良いのです。

つまり、臨機応変、千変万化の技を、状況に応じて出してゆくのが、一流のブロガーの文体と言えます。

【第5講】人を楽しませるブログ文章術

「風花心伝」に書かれているブログ文章術の基本に、
人を楽しませること、があります。

エンタメブログだけでなく、日記や趣味ブログにも、
この“人を楽しませる精神”は大切です。

人を楽しませるには、大きく分けると、
2つのことが必要です。

人を楽しませようとするプロ意識を持つこと

エンタテインメントの方程式を会得すること

日記ブログや趣味ブログで、
膨大なアクセスを集め、
アフィリエイトで安定した収入を得るには、
やはり、まずは自分のブログを、多くの読者に愛される人気ブログに育て
る必要があります。

例えば、子育て日記ブログを、
または、ガンダムについて語る趣味ブログを、
人気サイトに成長させるには、
いろんな戦術が必要になります。

「風花心伝」には、
そのための基礎知識とヒントは書かれているんですが、
日記・趣味ブログの各ジャンルごとの手順を明示することまでは、
手が回らなかったんです。

私としては、エンタメブログの中に、その方程式があるので、
それを、日記ブログや趣味ブログに応用してもらいたいと思っていますが、
この“応用”が、なかなか難しいようです。

そういうことを詳しく語ってゆくと、
また新たな商材ができてしまうんですね。

しかし、一言だけアドバイスをさせていただきます。
もし、あなたがキーワードの弱い、つまり需要が少ない話題の趣味系ブログを運営されていて、アクセスと収益が伸び悩んでいるとしたら、
日記ブログとして再生させると、成功する可能性が大きく広がります。

成功への道はあるのです。
どうか、ご自分の「好き」をあきらめないで、書き続けてください。

日記ブログの活用法については、
まずは、「風花未来セミナー」で、具体的かつ詳細に語りたいと思っています。

【第6講】文章力を養う3つの習慣とは

情報起業やアフィリエイトなど、ネットビジネスで想像以上に求められるのが、文章を書くことです。

それなのに、作文が苦手という方がけっこう多いみたい。

では、どうしたら、文章を書くことを楽しみながら、上達できるのでしょうか。

「文章の書き方」に関する本はかなりの数が出ていますが、それらをたくさん読む必要があるのかというと、そうではないです。

文章の上達には、3つの習慣が必要です。

良質な文章をたくさん繰り返し読むこと。

新聞を読まない人が増えていますが、スポーツ新聞ではなく、一般新聞を読むだけで、文章の基礎力は知らぬ間に身につきます。

毎日、文章を書く習慣を身につけること。

まずは、毎日書くこと。次に、文章を意識しながら書くことが大切。自分なりの工夫を常に考える。

自分自身を成長させること。

「文は人なり」という言葉があるとおり、文章は自分自身の投影です。常に向上心を持って、自分を磨いてゆく姿勢が大事。

「自分で記事を書かなくてもいい」とかいうお手軽なマニュアルに飛びつくのではなく、自分で書き、実力を養った方が、将来的に得るものは、はるかに大きいんです。

というか、文章の書けない優秀なビジネスマンなど存在しません。

リライトツールとか、自動投稿ツールとかに頼っていませんか？

自分の足で歩くことでしか、足腰は鍛えられないのです。
足腰が強くなければ、さまざまなビジネスシーンに対応することは不可能です。

まずは、自分で文章を書く楽しさを知ってください。

【第7講】言葉の喚起力について

今日のテーマは「**言葉の喚起力**」です。

最近の傾向として怖いと思うのは、
言葉を単なる記号としてしか、使っていない人が増えていることです。

「言霊（ことだま）」という言葉があるとおり、
言葉には魂が宿るという思想が日本には古くからありました。

しかし、インターネットや携帯電話の普及によって、
言葉は一つの意味を一面的に示す記号だという認識が、
一般的になってしまっているようです。

これは、ある意味、とんでもないことです。

「**アニマ**」という言葉をご存知でしょうか。

心理学者のユングは、好んでこの言葉を使いましたが、
ギリシャ語では、「**アニマ**」は、
「**太陽、風、息吹、魂**」という意味だそうです。

ものすごく、豊かだと感じませんか。

残念ながら、私たち日本人は、「**アニマ**」という言葉から、
風や太陽を感じることはできません。

しかし、ギリシャ人は、確かに、**アニマ**という一つの言葉から、
風を感じたり、魂のことを思ったりしたのですね。

これが言葉の多様性であり、象徴性であり、
深い意味での暗示性なのです。

つまり、言葉というものは、豊かに感じ、使うべきものだということ。

私たちブロガーも、言葉を大切に使うとともに、
読者のイマジネーションや生命力を喚起させるような言葉を、
発してゆきたいものです。

【第8講】文章の苦手な方へ

時々、目にするのが、記事を書くことが苦手な人には「風花心伝」は向いていないのでは？というレビューです。

答えは、ノー！

あのですねえ、自慢じゃないですが、私だって文章を書くのは子供の頃から苦手で、作文で誉められたことなど一度もないんですよ。

でも、下手はヘタなりに書いているうちに、何とか文章力と言えるものがついてきたのです。

文章はもともと人間が生み出したものですから、何も怖がることはありません。

大切なのは、上手く書こうとせずに、ただ書き出してみることです。

日本語は私たちが毎日使っているわけですから、書けない人はいません。

ある著名な作家は、お弟子さんに、文章の書き方について、こう教えたそうです。

「しゃべるように書いてごらん。そして筆がすべりすぎたら、少し休みなさい」

そのお弟子さんとは、実は水上勉。

そしてお師匠さんは、宇野浩二。

ともに有名な作家ですよ。

この話は、私が仕事でインタビューした女流作家さんから、お聞きしました。

文章はしゃべるように書いてみると良いです。

というのは、簡単に書けてしまうから。

でも、ただのお喋りであっては、言い過ぎたり、取り止めがなくなったりしますから、
少し手を休めて、リズムをととのえ、話を整理してゆく必要がでてくると
いうわけです。

だから、文章が苦手な人には「風花心伝」は向いていないということはありません。
むしろ逆。苦手な人にこそ、手にとって欲しいマニュアルが「風花心伝」
です。

書いているうちに、知らない間に、書くことが好きになってきたら、しめた
ものです。

また、そういう人の書く文章の方が、プロ臭くなくて、読んでいて心地よ
かったりします。

あまり難しいことを考えずに、日記ブログから始めてみませんか。

【第9講】文章力を養う3つの視点

さて、今回のテーマは、「文章力を養う3つの視点」です。

私は広告代理店でアルバイトしている時に、
ディレクターに勧められて、ライターになりました。

私は上司から、
「これから世の中は、ますます活字離れが進むから、しっかりとした文章力を身につけておくと、食べるのに苦労は要らない」と教えられました。

正直、世の中には文章の上手い人間はいくらでもいるので、
文章力だけでは通用しません。

しかし、インターネットの時代になって、
しっかりとした文章が書けることが貴重になってきたんです。

人間は情報の90%以上を目から得ると言われています。
ところが、インターネットですと、その最大の武器である視覚が封印されてしまいます。
ほとんどを文字だけで理解しなければいけないのです。
つまり、情報を発信する側は、確かな文章力を身につけておかないと、
ビジネスが成立しないということなる。

そんなわけで、このネット時代、文章力がある人が生き残ると思います。

では、文章力はどうしたら養えるのか？

私の持論をお話ししましょう。

以下の3つの視点で文章が書けるようになることが、
本当の文章力をつける唯一の道なのです。

これはどんな文章作法を読んでも書かれていません。

では、3つの視点とは何か？

- 1) 自分の視点
- 2) 読者の視点
- 3) 文章を書いている自分を見ている客観的(突き放した)な視点

2番目の読者の視点から文章を書ける人も少ないです。

自分が読者だったら、
今自分が書いている文章を読んで、どう感じるだろうか、
そういう意識を持つだけで文章は格段に進歩します。

で、3番目ですが、この視点を持てると、
劇的な進歩も夢ではありません。

どんな分野でも、成功する人は、
自分自身を冷めた眼で見ることができるのです。

思い切り突き放し、鳥が空から見下ろすように、
文章を書いている自分、自分が書いている文章を、
観察し、検証できる人は、本当にごく少数しかいません。

一朝一夕には行きませんが、
そういう視点を持つことを意識してみてください。

【第10講】感動こそ、上達の原動力

現在、私自身は、「文章読本」の類いを読み返しているんですが、いろいろ思うことがあります。

今日はそれについて書いてみますね。

テーマは「文章力を身につけるコツ」です。

文章力の基礎は、文法的な知識だとか、接続詞や助詞の使い方など、技術的なことが中心になっていると考えている人が、多いのではないのでしょうか。

実は、それは間違いなんです。

「文章の書き方」「文章作法」などの書籍を、20冊以上は読んでいますし、文才がないために、文章ではかなり苦労してきた私が言うのですから、少しは耳を傾ける価値はあるかもしれません。

最近になって思うのですが、文章上達の秘訣は、たった一つしかありません。

それは「**感動**」です。

良い文章に出逢ったら、素直に、豊かに感動できる感性を、常にもっていることです。

文章修行時代、私は「感動」した文章は必ずコピーし、ファイルすることにしていました。

それを喫茶店、あるいはトイレなどで、繰り返し読む。時には、自分の部屋で、大声で朗読する…。

そういうことを繰り返しているうちに、
鬼のような上司にも、文章を誉めてもらえるようになりました。

文章のお手本と呼ばれる本を、冷めた頭でいくら分析しても、
文章力は身につけません。

文章力をつけるためには、文章読本などの技術書を読むより、
良い文章に接して感動した経験を、積み重ねる方が、
良い文章だけが持つ独特の呼吸が会得できるのです。

その人の文章力の質は、それまでの人生の中で、
どれくらい素晴らしい文章と出逢い、
どれくらい豊かに感動できてきたか、
そのことによって大きく左右されるといっても過言ではありません。

良質な文章と深く、長く付き合うことで、
自分が成長してゆくことも期待できます。

最後に、今日読んでいて、感動した一節を引用させていただきます。

日がひかりはじめたとき
森のなかをみていたらば
森の中に祭のように人をすいよせるものをかんじた

これは八木重吉の詩です。

言葉の言い知れぬ力を感じたのは、
私だけではないと思うのですが...

【第 11 講】神業的な語尾変化のさせ方

比較的に表現が自由であるブログの文章も、基本的には「です・ます調」と「だ・である調」を統一すべきです。

そうしないと、文章がガタガタになって、非常に読みづらくなるんです。

しかし、意図的に語尾を統一させないで、独自の文章のリズムや流れを作ると、たいへん心地よい個性的な文体ができあがることがあります。

「風花心伝」では、そういうことは神業というか、ふつうの人にはできないので、初心者のうちはやるべきではないと語りました。

でも、あえて今回は、その神業的な語尾変化を活かした、お手本を読み解くことにします。

これから紹介するのは、土屋耕一さんという有名コピーライターが書いたコピーです。

では、さっそくご紹介。

最初の 1 行はヘッドコピー、その他はボディコピーです。

なぜ年齢をきくの

なにも女性だけではなく。

男だって、年齢をきかれるのは、

あまり気持ちのいいものじゃないんだ。

女の、そして男の、生きていく姿、

それを年齢というハカリにのせて

見たがる習慣に、抗議したいと思う。

いま、装いにも、住まいにも、

すべて暮らしの中から、もう年齢という

枠がなくなりつつあるのですね。

その自由な空気が、秋の、伊勢丹を

やさしくつつんでしまいました。

1975年の伊勢丹の広告なのですが、
今読んで、それほど古く感じません。

それと語尾に注目してください。
「です・ます調」と「だ・である調」が、まぜこぜになっています。

これを、試しに「です・ます調」か「だ・である調」のどちらかで、文の結びを統一してみてください。

上の文章のような生き生きとした感じ、雰囲気は薄れてしまうことに気づくはずですよ。

それに、文の流れやリズムも、この混ぜこぜ文体の方が心地いいんですね。

何が言いたいかというと、
あなたの書く文章が、会社が管理するホームページの説明文ならば、
文体は統一すべきです。
公式文書とはそういうものですから。

しかし、ブログは多くの場合、個人のメディアです。
個人はもっと自由であって良いと思うのです。

ただ、文体を自分の色に染めるのは、基礎を学んでからにしてください。

そうしないと、文章の均衡感覚が、崩れてしまいますからね。

それと、一流の書き手は、ここまで言葉というものにこだわり、
言葉の持つリズム、色合い、雰囲気、フォルムにまで、
神経を巡らせていることを、知っておいてほしいのです。

【第 12 講】文章が上達する4つのポイントとは？

言葉の性質として忘れてはいけないのは、基本的には伝わらないということです。

言葉は、伝わらない。

自分が言いたいこと、伝えたいことの真意が正確に伝わることはマレなんですね。

では、文章を書くことは非常にハードルが高く、素人が簡単にできるようになるものではないのでしょうか？

それも違うんですね。

しっかりとポイントをおさえれば、どなたでも確実に上達しますよ。

コピーライターの鈴木康之さんは、素晴らしい文章を書くためには、以下の4つが必要だと述べています。

- 1) 何を書くべきかを決める頭脳。
- 2) どう書けば分かってもらえるかを知る常識。
- 3) どう表現するかに悩まない言葉のセンス。
- 4) そして1～3の不足を補う努力。

引用元は「新・名作コピー読本」です。

頭脳・常識・センスときて、最後に努力と言ったあたりが、さすがだと思います。

努力という言葉をも、謙虚な姿勢と言い換えても良いと私は思っています。

言葉をナメたら、手痛いしっぺ返しをくらうでしょう。

なぜなら、言葉というものは、たいへん伝わりにくく、誤解を生みやすいという性質を根本的に持っているからです。

ちょっとうっかり、とかが許されないのが、言葉というものらしいのです。

先日、過剰なスポーツ放送について批判的なことを書きましたら、読者の方からお叱りのメールをいただきました。

私からすると、どういう読み方をしているのだろうか??という感じでしたが、読み返すと、やはり、私の方でもかなり誤解を生みそうな書き方をしていることに気づきました。

ブログには、常に新しい読者が訪問してくれます。

ということは、古い記事を読んでいない読者も多いということです。

過去記事とかを読んでいてくれている人ならば、私がスポーツ好きだということを知っています。

だから「スポーツなんか最悪だ」と書いても、本当にスポーツが嫌いなのではなく、「もっと面白くならないか」という強い希求のあらわれだと判断してくれます。

しかし、初めて訪れた方は、「何だこのブログの管理人は、スポーツが嫌いなのか、スポーツが好きな人もいるんだから、そんなこと書かないほうがいいよ」と思ってしまいかねないのです。

だから、誤解されないように、ブロガーは書かなければいけないのです。

どう書けば分かってもらえるかを知る常識

上の鈴木康之さんの言葉の意味は、ブログの場合は、長い付き合いの読者もいれば、初めて読む人もいるということ、配慮しながら書かなければいけないことを、教えてくれている気がします。

おわりに

12回にわたってお送りしてきました「文章力アップ講座」、いかがでしたでしょうか。

『ふつうのブログを人気ブログに変身させる』には、ブロガーの文章力は大きな比重を占めることはありません。

しっかりとした文章力を身につけているブロガーの数は多くないので、それを習得すれば、ブロガーとしての評価を得る近道となることでしょう。

文章を書くというと、すぐに文才という特殊な才能を想いうかべる人が多いのです。

「私には文才がないから……」とか。

それは、単なる勘違いです。

文章力の基本は、情報を正確に伝えることにあります。

その意味では、文章力というものは、先天的な才能に負うものではなく、後天的な要素で養われるものです。

つまり、練習とか修練とかいう、どなたにでもできる素朴な作業の積み重ねで培（つちか）われることを、どうか忘れないでください。

なお、「文章の書き方」については、風花心伝の参ノ章「記事を作る」で詳しく書いておりますので、ご参照ください。

風花心伝

<http://xn--9oqs91bpm0avms.com/>

また風花乱舞の第1章「風花式ブログ文章術を会得する方法」では、実践的な風花オリジナル文章術を披露しています。

風花乱舞

<http://kazahanaranbu.com/>

ただのブログを人気ブログに変身させる文章力アップ講座

さらには、これからも私は以下のブログとメルマガで「文章の書き方」について書いてゆくつもりです。

【ブログ】風花未来の風花心伝ブログアフィリエイト

<http://affiliatemind.blog47.fc2.com/>

もし、このレポートを捨てアド（メルマガを購読する予定のないメールアドレス）で申し込まれた方は、お手数ですが、再度、以下のメルマガの購読をお申し込みください。

【メルマガ】風花未来のネットビジネスだけで食べてゆく方法

<http://www.mag2.com/m/0000268460.html>

文章の書き方だけでなく、ブログの作り方、ネットビジネスの成功法など、有益な情報をお伝えしておりますので、ぜひご購読ください。

それでは、あなた様とまたお逢いできる日を楽しみにしています。

発行者：高田康孝（HN：風花未来）

風花未来セミナー

<http://kazahana.xsrv.jp/>

運営サイト：風花心伝ホームページ

<http://xn--9oqs91bpm0avms.com/>

運営サイト：風花乱舞ホームページ

<http://kazahanaranbu.com/>

運営サイト：風花瑠璃スタンダードバージョン

<http://miraiyosouzu.com/>

運営ブログ：風花心伝ブログ

<http://affiliatemind.blog47.fc2.com/>

ご購入相談：<https://1lejend.com/stepmail/kd.php?no=18547>

メルマガ：風花未来のネットビジネスだけで食べてゆく方法

<http://www.mag2.com/m/0000268460.html>

連絡先メールアドレス：kazehana6@gmail.com